

問1 香川県において「ため池」が数多く作られてきた理由として、気候や地形の背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 山地の影響で年間降水量が少なく、大きな河川も限られているため、水分不足を補う必要があったから。
2. 大規模な河川が頻繁に氾濫を起こすため、洪水による被害を一時的に食い止める遊水地が必要だったから。
3. 火山灰が堆積したシラス台地が広がっており、地表に水が溜まりにくいいため、人工的な貯水施設が必要だったから。
4. 冬に季節風の影響で大量の雪が降るため、春先の雪解け水を貯蔵して工業用水に転用する必要があったから。

問2 岡山県吉備中央町では、農業の活性化を目指して独自の取り組みを行い、果実の産出額を大幅に増加させました。この町が行った施策と、その結果として生じた農業経営の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。（2025年 宮城県公立入試 類似）

1. 町が主体となって耕作放棄地を「ぶどう生産団地」として整備し、研修体制を整えたことで新規就農者が増加し、1戸あたりの経営規模が拡大した。
2. 海外からの安価な輸入果実に対抗するため、大規模な機械化による省力化を徹底したことで、農家1人あたりの労働時間が大幅に短縮された。
3. 都市近郊であることを活かして観光農園への転換を全面的に推奨した結果、農家数が増加し、多品目の農産物を少量ずつ生産する形態が定着した。
4. 伝統的な栽培技術を保護するために、特定の熟練農家のみに補助金を集中させた結果、希少価値が高まり、少量生産ながら産出額が維持された。

問3 1985年から2015年にかけての四国地方と他地域間の移動手段を調査した統計において、1985年には全体の一定割合を占めていた船舶の利用が減少し、代わって自動車が全体の約3分の2を占めるほどに急増しました。このような交通手段の変化をもたらした主な要因として正しいものはどれですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。
2. 瀬戸内海での船舶事故を防ぐために、旅客船の航行が全面的に禁止されたこと。
3. 鉄道網の高速化が進み、自家用車よりも鉄道による移動が一般的になったこと。
4. 格安航空路線の拡大により、人々の移動手段の大部分が航空機へ転換されたこと。

問4 中国・四国地方の各県の統計において、工業製品出荷額が10兆円を超え、他県に比べて際立って高い数値を示している県があります。この県の工業が盛んな理由として最も適切な説明を選びなさい。（2019年 熊本県公立入試 類似）

1. 瀬戸内海の沿岸部に石油化学コンビナートなどが形成され、重化学工業が発達したため。
2. 内陸部の交通網の整備に伴い、高速道路沿いに先端技術産業の工場が多数進出したため。
3. 広大な平野を活用した米作りや果樹栽培が盛んで、農業に関連する製造業が発展したため。
4. 県内全域に大規模な漁港が多く、水産加工業の出荷額が全国有数の規模であるため。

問5 ある地域の地形図において、標高約332mの山頂であるA点から、海岸沿いの平地であるB点までの断面図を作成する場合、等高線の読み取り方とその結果として得られる地形の記述について、適切なものはどれですか。（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. A点付近は等高線が密集しており、断面図では高い位置からB点に向かって急激に標高が減少する曲線になる。
2. A点付近は等高線の間隔が広いいため、断面図では低い位置から始まり、B点に向かって標高が急上昇する。
3. A点とB点の等高線の間隔は等しいため、断面図では一定の傾斜を持つならかな斜面として描かれる。
4. A点とB点の間地点で等高線が最も密集しているため、断面図では中央が最も盛り上がった地形になる。

問6 統計資料において、県庁所在地の人口が約25万人、林業産出額が110億円という特徴を持つ徳島県について、その産業の背景を説明したものとして適切なものはどれですか。（2022年 山形公立入試 類似）

1. 県域の多くを山地が占めており、豊富な森林資源を活用した木材生産が盛んに行われている。
2. 四国地方で最も平野の割合が高いため、林業よりも米作りや野菜の栽培が中心となっている。
3. 県庁所在地の人口が四国の中で突出して多く、都市化が進んでいるため林業は衰退している。
4. 降水量が極めて少ない地域であるため、森林の生育が難しく林業産出額は四国で最低である。

問7 本州西部の中国地方を東西に貫くように位置し、鳥取県や島根県側の山陰地方と、岡山県や広島県側の山陽地方の気候を分ける境界となっている山地の名称を答えなさい。（2019年 福島県公立入試 類似）

1. 中国山地
2. 四国山地
3. 奥羽山脈
4. 鈴鹿山脈

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 山地の影響で年間降水量が少なく、大きな河川も限られているため、水分不足を補う必要があったから。	香川県の讃岐平野周辺は、四国山地によって南からの湿った空気が遮られるため、雨が降りにくい気候（瀬戸内の気候）にあります。また、急峻な山地が多く河川の距離も短いため、一度降った雨がすぐに海へ流れてしまうという地形的制約もありました。これらの理由から、安定的な農業経営を行うために「ため池」を築いて水を貯める仕組みが発達しました。洪水対策の遊水地は低湿地に見られる特徴であり、シラス台地は九州南部、積雪の利用は日本海側の地域で見られる特徴です。
問2	<b>答え 1</b> 町が主体となって耕作放棄地を「ぶどう生産団地」として整備し、研修体制を整えたことで新規就農者が増加し、1戸あたりの経営規模が拡大した。	岡山県吉備中央町では、町が主体となって耕作放棄地を「ぶどう生産団地」へと改良し、公社による研修体制を整備しました。この手厚い支援策によって、農業の新たな担い手となる新規就農者が確保されました。その結果、1戸あたりの経営面積（経営規模）が2014年の26aから2021年には37aへと拡大し、生産能力が高まったことで、果実全体の産出額が大きく増加するという因果関係が生まれています。
問3	<b>答え 1</b> 本州と四国を結ぶ3つのルートの本州四国連絡橋が完成し、陸上交通網が整備されたこと。	神戸・鳴門ルート、児島・坂出ルート、尾道・今治ルートという3つの本州四国連絡橋が整備されたことで、それまで船舶が中心だった四国と本州の間の交通が、自動車（自家用車、トラック、高速バス）へと大きく転換されました。これにより、天候に左右されにくい安定した輸送と、時間の短縮が可能になりました。
問4	<b>答え 1</b> 瀬戸内海の沿岸部に石油化学コンビナートなどが形成され、重化学工業が発達したため。	山口県は、周南市や岩国市などの瀬戸内海沿岸を中心に、石油化学や金属、輸送用機械などの大規模な工場が集まる瀬戸内工業地域の一角を担っています。そのため、工業製品出荷額が非常に高く、中国・四国地方の中でも経済的な存在感が大きいのが特徴です。農業や漁業の産出額が最大であるという事実はなく、あくまで重化学工業が産業の中心となっています。
問5	<b>答え 1</b> A点付近は等高線が密集しており、断面図では高い位置からB点に向かって急激に標高が減少する曲線になる。	断面図を作成する際、地形図上の等高線の密度は傾斜の度合いを直接反映します。山地であるA点付近は標高が高く等高線が密に描かれているため、断面図では高い地点から始まる急な斜面として表現されます。一方、港などの沿岸部であるB点付近は等高線がほとんど見られないため、断面図では標高が低く、変化の少ない平坦な地形として結ばれます。
問6	<b>答え 1</b> 県域の多くを山地が占めており、豊富な森林資源を活用した木材生産が盛んに行われている。	徳島県は県面積の約75%を森林が占めており、剣山山系などの険しい山地から良質な木材が産出されます。統計資料において林業産出額が100億円を超える背景には、このような地形的要因と豊かな森林資源があります。一方、平野が中心の香川県や、人口規模の異なる他の県とは、統計データ上の数値で明確に区別されます。
問7	<b>答え 1</b> 中国山地	中国地方の中央部を東西に走るこの山地は、比較的なだらかな山々が連なっているのが特徴です。この山地が障壁となることで、日本海側と瀬戸内側で異なる気候特性が生じます。